

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ そよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風 (東)		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成31年1月6日	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天神川の桜・小学校・保育園・公園・病院などの地域資源豊富な町内に隣接している施設です。そよ風を我が家のように思って頂き自分らしく生活して頂けるよう、スタッフが寄り添い支援出来るように努めています。家族様とも、信頼関係を築き「そよ風で良かった」と言っていたけように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは理念に沿って「入居者のその瞬間の意思を大切に」とモットーを掲げ、職員は一人ひとりの思いに合わせて細かな内容まで話し合い、自分の家族が受けたいと思えるようなケアの提供に努めています。職員間の関係性は良好で長く勤める職員も多く利用者や家族との馴染みの関係を築き、家族へは毎月利用者の様子を伝える手紙を送付したり年に2回夏祭りやクリスマス等の行事を兼ねて家族会を行い、利用者の状況を知ってもらいできる限り家族も関わられる機会を作る等家族との繋がりを大切にしています。食事面では旬の物や利用者に食べたい物を聞いて取り入れ、家庭的な雰囲気の中で利用者と職員と一緒に調理し食べる事で食事を楽しめるよう支援しています。また医師や看護師の協力を得ながら本人や家族の思いに沿った看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を朝礼にて唱和することで共有し実践に繋げています。	寄り添うことや笑顔、私らしさなどが謳われたホーム独自の理念を基に「入居者のその瞬間の意思を大切に」とのモットーを作成し、廊下に掲示しています。利用者の意思を尊重することを大切に、認知症の人への接し方を伝える中や迷いが生じた時など事ある毎に理念に立ち戻り、込められた意義を職員に伝え実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り町内会の行事に参加しています。	町会長から案内があり、小学校で行われる敬老会や桜の花を見る会等に参加したり、年に数回婦人会の活動の一環の仕出し弁当を注文しています。併設施設に保育園児や小学生が来訪する際は利用者も参加し一緒に交流を楽しんでいます。また散歩や買い物、回覧板を届ける際等は出会った方と挨拶したり、併設施設が空いている日を地域の活動に提供する等交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり活かしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や町内の行事報告頂き参加可能な限り参加させて頂いています。	会議は町内会長や婦人会会員、地域包括支援センター職員などの参加を得て開催しています。活動や利用者の状況、研修、ヒヤリハットやその後の対応などを報告し意見交換をしています。災害時に近隣の方を一時的に受け入れる事や利用者の避難場所についてはホームに留まる事等を話し合い決めるなど運営に活かせる有意義な会議となっています。	会議への家族の参加が困難な状況となっています。家族に興味を持ってもらえるテーマなどを検討されていますので実現でき家族の参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録や介護保険更新時に伺い情報を交換しています。	介護認定の更新などの手続きや運営推進会議の議事録の提出に直接区役所の窓口を訪問し、わからない事があれば電話で随時問い合わせています。年に1度のグループホーム協議会や行政から研修案内が届いた際は職員が参加し協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓・エレベーターはキーロックしています。研修会を開催・参加して身体拘束をしない意識向上に努めています。	年に1度身体拘束に関する研修を行うと共に身体拘束適正化委員会を発足し、会議の中で具体的に話し合い、外部研修がある時は新人職員が参加しています。エレベーターはテンキーで施錠していますが横並びのフロア間は自由に行き来する事ができるようにしています。就寝中のみセンサーを使用している方は随時必要性を検討し外す方もいます。また外出したい方には家事などで気分を変えてもらったり、納得が得られるまで付き添って出かける事もあります。	

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や会議などで意識向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、研修会にて学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を訊ね、十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話やすい機会や雰囲気を作り意見・要望を言って頂けるようにし、運営に反映出来るように努めています。	日々の中で利用者から希望を聞き食べたい物を献立や外食などに取り入れています。家族へは担当職員が毎月様子を伝える手紙を送り、日頃から面会も多く来訪時に意見が無いかを聞くと共に年2回行事を兼ねて行う家族会でも聞いています。意見は出にくい状況ですが過去には意見を受けて散歩の機会を増やした事もあり、職員間で検討し速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映出来るよう努めている。	職員の意見は其々月に1度の全体会議やユニット会議の中で聴き、会議では発言しやすいよう全職員に意見が無いかを聞いています。職員の意見を受けて加湿器等の物品購入や職員不足についてはアルバイトの採用等に繋げています。また研修や環境整備等の担当もあり、担当者が中心となって考え取り組んでいます。年に1度の個人面談も意見や希望を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、向上心を持って働いて頂けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分ではありませんが、内外の研修会に参加して頂いています。		

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分ではありませんが、勉強会研修会に参加して頂いています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分とできませんが出来る限り、安心して生活して頂けるよう要望を伺うよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分とできませんが出来る限り、家族様の意見。要望を伺い、安心して生活して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、出来る限り対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただき、見守りながら暮らしを共に出来る関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族との絆を大切にしながら支えていける関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援出来るように努めている。	親戚や近所に住んでいた方、稽古事の生徒や元同僚等の来訪があり、居室に案内しゆっくり話ができるよう配慮したり、帰り際にはまた来てもらえるよう伝えていきます。家族の協力を得て馴染みの美容院や墓参り等に出かけたり、親戚の集まる正月に自宅に戻る方もおり家族の協力を得ながら今までの暮らしや菅家が継続でKるよう支援をしています。また届いた葉書を一緒に読んだり、年賀状を書く方は傍で見守りや投函等を支援しています。	

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り支援出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り支援出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の思いや希望を把握出来るように努めている。	入居時にこれまでの生活の経緯や趣味等の分る事を家族に書いてもらったり、病院や自宅等の本人がいる場所を訪ねて聞き取った本人や家族の希望、身体状況等の情報を参考に意向の把握に繋げています。入居後は会話の中で本人から聞いたり、職員が汲み取った思いはケース会議で検討し、把握が困難な場合でも表情等から推測したり、家族にも聞きながら意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に協力頂き、これまでの生活歴を伺い把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分ではありませんが、個々の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・医療機関の医師・看護師などの意見も参考にケース会議で話し合い介護計画を作成してあります	アセスメントや事前に確認した本人や家族の意向を基に介護計画を作成しています。毎月担当職員がモニタリングを行い、6ヶ月毎に再アセスメントを実施し変化の無い場合は6カ月から1年でサービス担当者会議を開き計画を見直しています。必要に応じて往診時に確認した医師の意見や看護職員の意見を反映させています。また介護計画は番号を付け記録し日々実施状況を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分ではありませんが、情報を共有し活かしています。		

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分ではありませんが、出来る限り取り組めるよう努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療以外、24時間の電話対応や臨時往診をお受け健康を維持出来るよう支援しています。	入居時に希望のかかりつけ医を選べる事を伝えていますが現在は全利用者が協力医を選択し月2回往診を受けています。専門医へ受診する場合は家族が付き添い口頭で情報をやり取りし、状況によっては直接医師間で情報交換をしています。体調変化時などは協力医に連絡し指示を得て対応しています。また必要や希望に応じて訪問歯科や眼科、皮膚科の往診も受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間電話対応出来、必要に応じて看護を受ける事が出来るように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関から病院への情報も早く対応して頂き、入院時も安心して治療できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医療機関の医師・看護師などと話し合いを行い協力し支援に取り組んでいます。	入居時に指針を基に説明し、ホームの方針として医療を必要としない場合は看取り支援を行うことを伝えていきます。食事が取れなくなる等状態が変化した場合は医師を交え家族、職員間で話し合い方針を決めています。家族は面会を増やしたり泊まり込んだ方もおり協力を得ながら支援し、職員へは状態を説明し職員の思いや意見も聞き話し合いを重ね、医師や看護師のアドバイスをもらいながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や救命講習を受け実践できるように努めています。		

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修会や会議などで意識向上に努め、運営推進会議などで協力体制を築いています。	年に2回昼夜を想定した火災訓練を行い、1度は消防署の立ち会いを得て、通報や初期消火、利用者の避難誘導などを行っています。訓練は運営推進会議で案内や報告を行い、火災時などは町会長の協力が得られると共に一時的に地域の方を受け入れることを伝えています。レトルト食品や水などの他、各フロアに懐中電灯やローソク、コンロなどを準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会でも学習し個々の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが出来るようにしている。	接遇マナーやプライバシーに関する研修を行っています。日頃は丁寧な言葉遣いに努め、子ども扱いをしない事や命令調の言葉にならないよう注意を払い、不適切な言葉遣いや対応が見られた場合はその都度注意をしています。また入浴や排泄介助の際は希望に合わせて同性介助をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分ではありませんが、自己決定が出来るような支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にその人らしい暮らしをして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り見守りながらおしゃれして頂けるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に配膳したり、片づけを手伝って頂いたりしています。	ユニット毎に旬の物や暦の上での行事食、利用者の好みなどを取り入れて献立を立て、時には利用者と一緒に買い物に行っています。利用者は盛り付けや配膳、食器拭きなどに携わり、職員と共に談笑しながら食事を摂っています。少人数でレストランなどへの外出や寿司の出勤、パンバイキング、焼き肉や鍋料理など食事を工夫し楽しんでもらっています。また年に2回の家族会では家族と一緒に食事を摂る機会を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態や習慣に応じた支援をしています。		

天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の協力のもと、本人の状態に応じた口腔ケアを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を理解し出来る限り自立出来るように支援しています。	立位が取れる方はトイレでの排泄を基本に個々の記録から排泄状況やリズムを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行っています。おむつを使用して退院となった場合はポータブルトイレの使用から徐々にトイレに移行し入院前の状況に戻るよう支援をしています。重度化に伴い排泄状況が低下する方もいますがケア会議で支援方法を検討し出来る限りトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医療機関の医師・看護師・薬剤師の協力のもと、個々に応じた予防と対応に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっていますが、希望があれば入って頂く事は出来ます。出来る限り楽しく入浴していただけるように支援しています。	入浴は3日に1度を基本に午前中から支援し、自立度の高い方は希望で入浴回数を増やしたり、夕食後や就寝前の入浴にもできる限り対応しています。一人ずつ湯を入れ替え柚子や薔薇湯をしたり、職員と会話や歌を歌いゆっくり入ってもらっています。入浴を断る方は声掛け等を工夫し、難しい場合は次の日にする等柔軟に対応しています。また併設施設のリフト浴を利用する事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り安心して休息出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法や用量について理解し支援出来るように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ・気分転換出来るように出来る限りの支援をしています。		



天神川ケアセンターそよ風（東）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に添った支援ができるように努めています。家族様の協力もあり散歩程度の外出も支援しています。	気候の良い時期は公園への散歩や近隣小学校で飼っているウサギを見に行ったり、玄関先に出て外気浴をしています。また地域の敬老会や春に行われる桜を見る会などの催しに出かけたり、時にはドライブを兼ねて嵐山やコスモスなどの花を見に行くこともあります。家族の来訪時に一緒に散歩する方もおり、家族の協力も得ながら外出できるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、財布に数千円のお小遣いを所持しておられ買い物に出かける時一緒に行き見守り支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の飾りや花・食べ物で季節を感じて頂き、照明や温度調整にて居心地の良い空間で生活して頂けるよう工夫しています。	共用空間は季節行事に合わせた雑飾り等と共に毎月花を掛け、利用者の趣味の作品等を飾っています。リビングや廊下の奥にも観葉植物と共にソファを置き居場所を選べるようにしたり、利用者同士の関係を見ながらテーブルの配置や座席を工夫しています。また日々モップ掛けなど関わられる方と一緒に掃除を行い清潔な空間を保つと共に日差しをカーテンで調整しながら過ごしやすいよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限る思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を置き、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	自宅から馴染みのある物を持ってきてもらうよう伝え、籐の箆箆やソファ、テーブルと椅子等を持参し、家族と相談し過ごしやすいよう配置を決めています。家族の写真や遺影、自作の人形を飾ったり、好きな本を読む方もおり、その人らしく安心できる居室となるよう支援をしています。また関わられる方と一緒に掃除を行い、洗面器に水を張ったり、濡れタオルを干し乾燥にも留意をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り安全に自立した生活がおくれるように工夫しています。		